朝日小学生新聞 50th SINCE 1967

動物も人もハッピーに

震災から復旧中 熊本市動植物園

未来を見に行こう
こども会議編

未来を見に行こう「こども会議」の5回目を11月12日、熊本市動植物園で開きました。テーマは「未来の動物園を考えよう」。去年4月の熊本地震からの復旧をめざす動物園の取り組みや、動物の幸せを大切にする展示を取材しました。（猪野元健、松村大行、近藤理恵）

私が見られるのは
日本ではここだけ

キンシコウ

公開まだ半分、来年全面に

熊本市動植物園は1929年にできた、日本で6番目に古い動物園です。「孫悟空」のモデルともいわれる中国のサル「キンシコウ」は、国内ではここでしか見られません。

熊本地震で最大震度6強のゆれにおそわれ、大きな被害を受けました。地震から10か月後の今年2月、安全な部分だけを土日祝日にのみ公開を始めました。現在の公開エリアは全体の半分ほどです。残りの非公開エリアの復旧を急ぎ、来年には全面再開したいといいます。

参加した子どもたちは、非公開のエリアを特別に案内してもらいました。地割れした道、こわれたユキヒョウのおり、水道が使えない展示室にのびるホース――。お客さんになかなか会えないチンパンジーやキンシコウ、マンドリルなども見ました。

非公開エリアでは、道などに地震の被害が今もみられます

「ドンドンドン！」。チンパンジー舎を見学したときのことです。子どもたちの真上の強化ガラスを、おすのマルク（37歳）が力強く鳴らしました。手でたたき、ジャンプもします。数分続いた激しい音と動きに、子どもたちは圧倒されました。獣医師の上野明日香さんは「めすに力を見せる行為です。久しぶりのお客さんで、はりきっていたのかもしれません」と説明しました。

チンパンジーがガラスを鳴らして子どもたちをおどろかせました＝大牟田市動物園の写真をのぞいてどれも12日、熊本市の熊本市動植物園

上野明日香さん

直後は目の充血や下痢も

園内の見学前、上野さんは地震後の動物のようすを子どもたちに説明しました。被災直後はアフリカゾウが興奮して目が充血し、鳥は余震のたびに鳴きました。霊長類の動物は食欲がなくなり、下痢など体調をくずしました。飼育係が動物の体調や心のケアを続け、元気を取りもどしました。

上野さんは「地震で被災した動物園だからこそ、人の命も動物の命も大切だと伝える動物園になりたい」と話します。展示施設が古くなったことなどから、園は施設を新しくする計画を立てています。今回の「こども会議」で子どもたちが考えたアイデアも、計画の参考にする予定です。

モルモットとのふれあいで、心臓の音を聞きました

被災したからこそ命の重さを

命を学ぶ活動として、熊本市動植物園が地震後に力を入れている「動物とのふれあい」も体験。小さい動物のモルモットの心臓の音がとても速いことにおどろきました。

キリンにおじぎしてもらい採血

未来の動物園の姿のヒントを得ようと、「動物の幸せ」を考える取り組みが話題の大牟田市動物園（福岡県）の獣医師、川瀬啓祐さんに来てもらい、話を聞きました。

大牟田市動物園のキリンのトレーニング。飼育係の合図でキリンは脚をあげました＝13日

川瀬さんたちが力を入れている取り組みのひとつが、動物の健康のためのトレーニングです。キリンの場合、頭を下げてもらい飼育係が首から採血します。麻酔をしないので、キリンの負担が少ないです。飼育係が手を上げた方向にキリンは体を向けます。その間におしりから体温を測ります。キリンの脚をタッチするのは「脚を上げて」の合図で、ひづめをけずるときに使います。

川瀬啓祐さん

大牟田市動物園では、トレーニングの様子や飼育係が工夫した展示施設を、お客さんに見てもらうなど発信して、入園者が年々増加しています。

川瀬さんは「動物に協力してもらうことで、動物と飼育員が安全で健康に生活できます」。

エリアの特色出し世界旅行気分

ふんを肥料に畑／AIガイドを

岡崎伸一さん

子どもたちは取材で学んだことをふまえて、記者や飼育係といっしょに未来の動物園について話し合いました。

「世界旅行をした気分になれる動物園。動物がすむ地域によってエリアを分けて、その地域の料理を食べられるレストランもつくる」「動物がすんでいた環境と同じにするために、床を土にしたりその地域の植物を植えたりする」「ふんを肥料にした畑を園内につくってえさ代を少なくし、動物のための設備が整っている動物園にしたい」「動物のことをもっと知れる動物園にするため、AI（人工知能）を使って質問に答えてくれるガイドを作る」などのアイデアが出ました。

発表を聞いた熊本市動植物園の園長、岡崎伸一さんは「新しい動物園については今まで大人の意見しか聞いてきませんでしたが、子どもの意見も大人と同じでびっくりしました。大人の話し合いでも、動物の種類などでゾーンを分けることや、猛獣にえさをやるロボットの活用などが話題になりました。動物の福祉のことも考えた、お客さんが楽しめる場所にしたい。みなさんの意見も参考にして考えたいです」と話しました。

▼参加したみなさん

井上太貴さん（福岡県柳川市立柳河小３年）、今村薫子さん（熊本市立帯山小３年）、今村葵子さん（熊本市立帯山小３年）、宇治蓮実さん（熊本市立託麻南小５年）、金原慶盛さん（東京都足立区立東綾瀬小４年）、木庭慶一郎さん（熊本・熊本大学教育学部附属小３年）、栗林奈子さん（熊本・熊本大学教育学部附属小３年）、田邉龍司さん（神奈川県横浜市立石川小５年）、橋本保純さん（熊本市立力合西小６年）、三城輝咲さん（福岡・福岡教育大学附属小倉小２年）、三城耀世さん（福岡・福岡教育大学附属小倉小５年）、山本悠莉さん（熊本市立白川小５年）、渡邊颯大さん（熊本市立健軍小４年）

※小学生たちが取材をまとめた新聞は、12月にウェブサイト「ジュニア朝日」で紹介する予定です

２０１７年１１月２２日付　朝日小学生新聞